

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：32604
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：20H02323
研究課題名（和文）少子化時代の子育ちの社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Form of Housing and Streets to Rebuild Social Capital for Child-raising under the Declining Birthrate Ultimate

研究代表者
木下 勇（Kinoshita, Isami）
大妻女子大学・社会情報学部・教授

研究者番号：80251148
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は子どもの外遊び減少を背景に、子どもが育つ社会関係資本の再構築をする住宅、街路、街区の形態のあり方を求めた。社会関係資本の概念を場をベースとしたものとして再定義し、分析指標を立て、欧州6カ国の海外研究協力者と公開研究討議（3回）を実施した。またオンライン調査に加えて10市町の小中学校に配票調査を行い、3,753票の有効回答数を分析し、外遊びをしない子どもは5～7割と地域差も示し、外遊びと社会関係資本との相関を明らかにした。これらの調査から子どもが育つ社会関係資本を再構築する住宅、街路、街区について107パターンを抽出し、子どもまちづくり型録（パターン・ランゲージ）の図書として出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
少子化の勢いは止まらず、国の将来の不安要因ともなっている。だが数の面のみではなく、子育ての社会関係資本は自立した民主的社会的公共を担う一員として人間成長を支える根幹であることを文献と具体例で明らかにした事は、今日の民主主義の危機が懸念される時代に大きな意義を有す。そして孤立化を促進する住宅、都市開発ではなく、社会関係資本を再構築する住宅・街路・街区の形態をパターン・ランゲージとして公刊したことは研究成果の社会的意義を十分に示す。またこの分野の議論を海外研究協力者と並行して進めてきたことは普遍化への学術的意義は高く、今後、英文図書も予定されていることからその影響は広く世界的に及ぶことが期待される。

研究成果の概要（英文）：Against the background of the decrease in children's outdoor play, this research seeks the form of houses, streets, and blocks that reconstruct the social capital in which children grow up. We redefined the concept of social capital based on place, established analytical indicators, and held open research discussions (three times) with overseas research collaborators from six European countries. In addition, we conducted a survey of elementary and junior high schools in 10 municipalities, and analyzed the number of valid responses from 3,753 votes. It was clarified that there is a high correlation with social capital. From these surveys, we extracted 107 patterns of housing, streets, and blocks that reconstruct the social capital that children grow up in, and published them as a book of children's town development pattern (pattern language).

研究分野：都市計画

キーワード：子ども 社会関係資本 住まい 道 住区 少子化 外遊び パターン・ランゲージ

1. 研究開始当初の背景

子どもの外遊びはますます減少傾向にある。平日に外遊びしない子ども（小学校1年生から6年生全員対象）は大都市部で8割、地方都市で7割、農村部で6割という調査結果（2018, 2019）¹を得て、本研究課題を企画した。

我が国では、遊びは劣位に置かれ、対策もないに等しい。「公園でのボール遊び禁止」²、「子どもの声が騒音」、「道路遊び迷惑」といった苦情が寄せられるように、子どもが外で遊び難くなる社会状況が進んでいる。またITの進展は子どもの遊びの室内化に拍車をかける。便利な高度情報消費社会は一方で、近隣の人間関係、コミュニティの結束無くとも生活できるかのように、孤立化を促進し、人の絆が分断される。縁側等の内と外、私と公のあいまいな中間領域が失われてきたように、建築や都市計画も空間的にも制度的にもその分断に加担してきたとも言える。

それは孤育てといわれるように特に母親に子育ての責任が集中し、育児ノイローゼ、自殺、児童虐待など孤立ゆえの悲劇をも生み出している。これら子育ての不安と未来の社会への不安はこれから結婚する若い世代の心情にも響き、少子化の流れを加速する。「子どもを育てるにはムラが必要」とアフリカの諺は我が国の村落共同体も有していた考えであり、子どもの成長の舞台としての地域空間と地域社会のあり方を現代的に再構築することは少子化対策にも期待される。国際的にも子どもの遊びと社会関係資本に関する論文は少なく³、概念提起に止まり⁴、これから国際的に議論を深めていくことも求められる。

2. 研究の目的

本研究は子どもの成長を育む社会関係資本を再構築する住宅・道・住区の形態の少子化時代に対応した関係を見出し、新たな計画理念・手法に導くことを目的とする。外遊びを中心に子どもの成長を社会関係資本との関連でとらえ、空間形態をその観点で評価しながら、少子化時代に適応した住居・道・住区の形態を新たに提案しようとする。

3. 研究の方法

上記目的のために、ここでは近隣関係構築を意図したコウハウジング等の住居、子どもの遊びを許容する歩車共存道路や遊び場道路開放等の道、住区には比較的子どもの遊び環境を意図した新住宅地および比較対照のための一般的な既成市街地、および地方小都市や農山村地域を選び、子どもの外遊びを中心とした子育てと社会関係資本の関係を成り立たせる空間形態や他の要因を明らかにする。

まず社会関係資本と子どもの外遊びの概念の整理を既往文献整理から行い、分析指標化を行う。その後に対象地を選定し、観察や半構造化・構造化面接、配票調査の調査を行う。また、欧州6カ国の研究協力者と研究討議を行い、海外事例の情報収集につとめ、本概念と空間整備の方向の普遍化をめざす。

以上の調査分析から、空間形態、社会関係資本、子育ての関係の諸相を明らかにし、それらを名付ける（パタン・ランゲージ化）作業を経て、「子どもを育てる住まい・道・まちづくり型録」として社会に発信する。

4. 研究成果

4-1. 子どもが育つ社会関係資本概念整理

社会関係資本はNPO法制定後にソーシャル・キャピタル(Social Capital、以下、SCという。)と議論され、一般に次のように紹介される。「『信頼』『規範』『ネットワーク』といった社会組織の特徴であり、共通の目的に向かって協調行動を導くものとされる。いわば、信頼に裏打ちされた社会的な繋がりあるいは豊かな人間関係と捉えることができよう。」(内閣府, 2003)⁵

これはロバート・パットナム(Robert D Putnam)の著書『孤独なボウリング』(Putnam, 2000)⁶をもとにしている。パットナムはその著書で「ウェストバージニア州農村学校の指導主事であったL・J・ハニファンが成功した学校にとってのコミュニティ関与の重要性を主張するにあたり、ハニファンは「社会関係資本」というアイデアを引き合いに出した。」と紹介している。

Social Capital (社会関係資本) はジョン・デューイが1899年に「学校と社会」⁷で初めて使い、その後ハニファンで展開された概念は、教育という範疇で捉えるには一面的であり、そもそも地域社会が有している、教育、安全、福祉(相互扶助)、健康、衛生、娯楽・祭典、生きがい等の機能で金に換算できない資本である。それが子どもという将来の人的資本の形成にも機能していることをデューイやハニファンは示し、教育は学校のみではない、地域という場が学校だけでは成し得ない、人間形成の資本の蓄積の場であることを言っていたと考えられる。また米国における都市開発を生活者の視点で批判したジェイン・ジェイコブズも近隣の社会関係資本

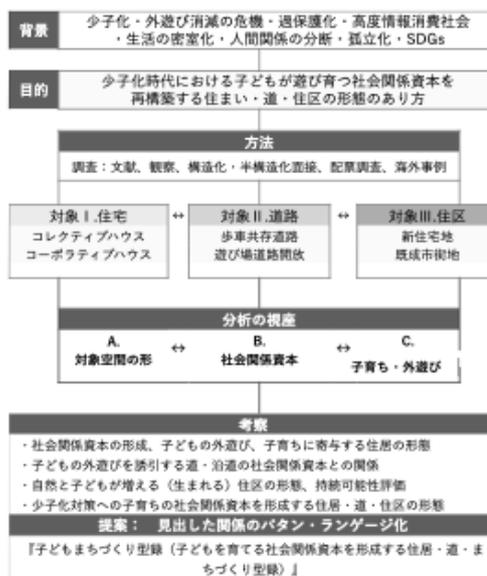


図1：研究の流れ

を人間形成と公共性の形成の基本に置く。

「現実世界では、子供たちが成功した都市生活の第一原則を学ぶのは—そもそも学べたらの話ですが—都市の歩道にいる通常の大人からだけなのです。その第一原則とは、人々はお互いに関

表 1：SC の概念比較

	伝統的 SC	現代的 SC
信頼	○	○
贈与的規範	○	△
人のつながり	○	○
人間成長	○	△
場所性	○	×
近隣	○	△
広域ネットワーク	×	○

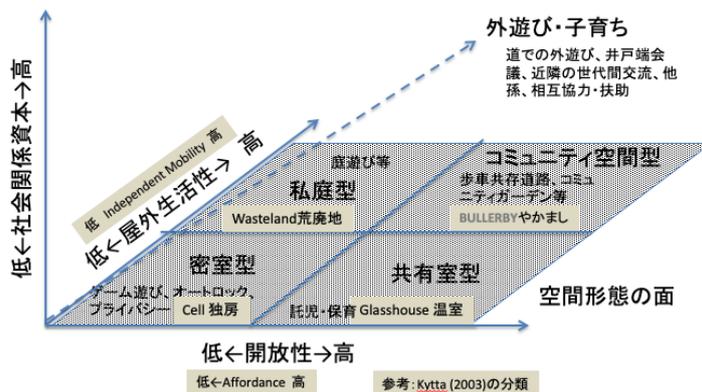


図 2：空間形態・屋外生活性・社会関係資本の関係の仮説

らつながりがなくても、お互いに対し多少なりとも公共的な責任を負わなくてはならない、ということです。これを言われただけで学ぶ人はいません。自分とは何の姻戚関係も友人関係も役職上の責任もない人が、自分に対して多少なりとも公共的な責任を果たしてくれたという体験から学ぶものなのです。」と (Jacobs, 1969) 8。

これらパットナム、またブルデュー、コールマン等社会学者が定義する人のネットワークを中心とした社会関係資本概念を現代的 SC とした時に、デュレイやジェイコブズ等が言及した概念を伝統的 SC と対置し、その弁償法的展開として社会関係資本の概念を次のように定義した。

社会関係資本とは「人間関係の網の目が有している、相互交流・扶助の機能」である。それは近隣コミュニティの場を通して子どもの成育に影響を与え、民主主義的な公共生活の根幹の「信頼」と「規律」を備えている。さらに近隣コミュニティを超えた「ネットワーク」がその機能を補完する。

そこで、外遊びとの関係を探るにあたり、研究協力者の Kytta の「やかまし村」モデルを参考に、空間形態の開放性と屋外生活性と社会関係資本の関係の仮説を図 2 のように設定した。

4-2. 欧州 6 カ国の研究協力者との国際研究討議セミナー

社会関係資本と外遊びとの関係について、フィンランド、スウェーデン、ドイツ、スイス、オランダ、英国と欧州 6 カ国の海外研究協力者に調査を依頼し、その調査結果の発表を兼ねて、3 夜にわたる、国際オンラインセミナーを開催した (表 2)。

その結果、以下の点が明らかになった。1) 欧州では組合方式の集合住宅地づくりは一世紀以上の歴史があり、スイスのフライドルフのように教育理念を含めた相互扶助の共同体の住宅地は更新しながらも子育ての社会関係資本の高さを示す。2) 現代のコラボラティブハウスやコレクティブハウスも子育ての社会関係資本の高さを示し、その普及には官民連携の制度改善と事業展開が必要である。3) 緑地豊かな計画的住宅地は玄関先からの安全な行動圏の拡大が子どもの外遊びを誘引する。だが物理的環境が社会関係資本を形成するとは言い難く、半分程度の説明力である (討議より)。4) 住宅地の再開発において中庭、外の安全な街路の連続性を保つ優良事例があるが、経済的格差などで排除される層を包括する仕組みが必要である。

表 2：国際研究討議セミナー

2022年2月 子育ての社会関係資本オンラインセミナー 司会：寺田光成 (高崎経済大学)、コーディネーター：木下勇 (大妻女子大学)

日時	テーマ	講演者	所属	内容
1 2.7	家：コーポラティブ & コレクティブハウス	ウルス・マウラー	スイス教育と建築ネットワーク 会長	フライドルフ 1919年建設されたベスタロッツの教育理念による組合方式集合住宅団地と現代の住宅地
		カティ・ランドジーゼル	ドイツ PA (教育的活動) 遊び文化協会	ミュンヘンの子どもにやさしいアーバンビレッジ AckermanbogenとコレクティブハウスWagnis
		松本暢子	大妻女子大学教授	日本におけるコレクティブハウスの展開
2 2.1	北欧における社会関係資本：やかまし村の子どもたちの今	ペーラ・モール、エバ・ブルカトファ	フィンランド アアルト大学 Prof. Marketta Kytta Lab.	やかまし村モデルから見た住宅地West Herttonie
		メリット・ヤンソン	スウェーデン農業科学大学准教授	やかまし村のモデルのHjärupの現状調査から
		吉永真理	昭和薬科大学教授	長靴下のピッピーのやかまし村モデルからの外遊び促進を世田谷区の住宅地を事例に
3 2.2	道と街区：オランダ、英国、日本の事例から	ティム・ギル	英国デザインカウンシル使節	ロンドンの住宅地再開発の事例から
		リア・カーステン	オランダ・アムステルダム大学	子どもにやさしい街路と街区の物理的条件
		三輪律江	横浜市立大学教授	まち保育：保育園児のまち散歩からのコミュニティとの関わり

4-3. 国内のオンラインアンケートおよび対象地への小中学校への配票調査

社会関係資本と子どもの外遊びの関係については、(1)オンライン調査から通時的変化を捉え、(2)配票調査から地域類型別に特徴を捉えた。結果の要点を示す。

表3 調査概要

(1) オンライン調査 (2021年)		(2) 配票調査 (2021年~2022年)		
対象者	有効回答数	調査地	有効回答数	対象地
10~70代の各年代 100名程度	n=665	都市・既成市街地	n=2078	仙台市・世田谷区・松戸市・(京都市)
		都市・計画的住宅地	n=967	多摩市・松戸市・横浜市
		地方・農村中心部	n=708	大子町・静岡市清水区・内子町

(1) オンライン調査

関係者を通じた2287名へのオンライン調査を経て調査項目を選定した。

- 外遊びは、若い世代に向かうに従いその頻度が減少しており、特に20代・10代で「たまに遊んだ」が増加し「全く遊ばなかった」も約1割にのぼった。
- 地域との関わり合いについては、若い世代に向かうに従い近隣関係は生活面に入り込んだような関係から顔見知り程度の関係に変化している。
- 家の周囲の遊び環境について「1. 大人が立ち話」している風景が若い世代になるにつれて徐々に消失し、「2. 子どもが遊ぶ」「3. 家の間を回遊できる」環境も20代前後から10代にかけて急激に減少し、「4. 1~3のこうした環境はない」が約4割と増加している。
- 「地域で自由に遊ぶことができた」では、どの世代でも「1. そう思う、2. どちらかといえばそう思う」が7割以上を占めているが、10代・20代では2割ほどが「3. どちらかといえばそう思わない・4. そう思わない」が増えている。

以上、外遊びの減少は特に10代、20代に顕著であり、社会関係資本の衰退も同時並行的に進んでいることがうかがえる。

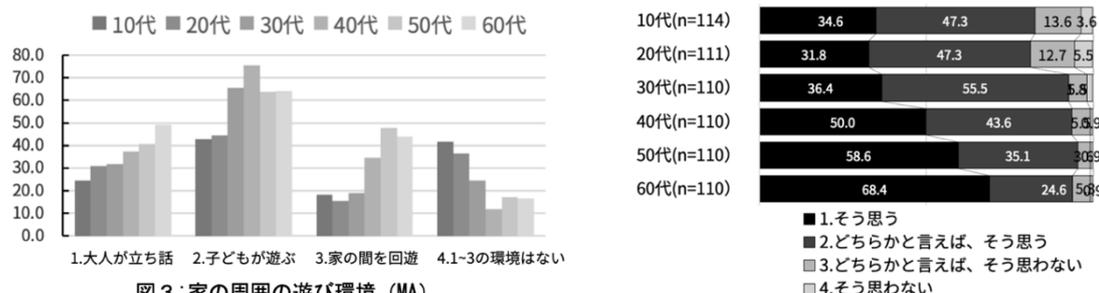


図3: 家の周囲の遊び環境 (MA)

(2) 配票調査

では現代においては、いかなる様相か。地域類型別に分析した一部項目について示す。

- 平日の放課後では、全体として外遊びを全くしない子どもが3~5割おり、地方農村部では5~6割とその割合が高い。都市の計画的住宅地ではその割合が低く外遊びの日数が多かった。
- 平日の放課後のゲームやスマホを(少なくとも1時間)する日、すなわちスクリーンタイムは、どの地域においても「5日」「1日」と二極化の様相を示していたが、農村部では「5日」の割合が高くなっている。これは以前、既往研究にて地方農村では少子化の影響による統廃合等により子どもが移動可能な範囲で気軽に遊ぶことができないことが指摘されていたことから、手軽なゲームなどが人気になっていると考えられる。
- 社会関係資本については、複数項目間において地域類型ごとに異なる傾向がみられている。
- なお調査地の1つ内子町を取り上げ、外遊びをしている(少なくとも1日はしている)子どもと、していない(0日)の子の二群に分けて地域との関わり合いについてクロス集計を行ったところ、悪戯や悪さをして叱られたり注意された経験、褒められたりした経験、大人との会話では有意な水準で相関が見られている⁹⁾。

以上、社会関係資本と外遊びについては、いくつかの項目で相関が確認されている。

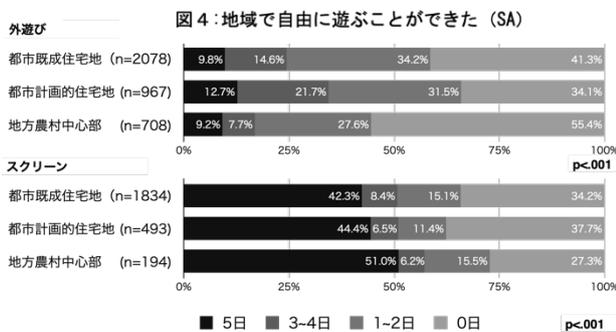


図5 地域類型別の外遊び、スクリーンタイム日数

4-4. ケース・スタディ

配票調査対象地の静岡県清水区蒲原(旧蒲原町)にてインタビュー調査、観察調査を実施した結果、かつては家の土間も含め、庭などが開かれて人の行き来があり、子どもが遊び、子育ての社会関係資本が形成される空間形態との関連が多くみられたことがわかった。このような半屋

外、土間などの接縁空間を見直し、社会的介入を起こしていくことも方策として考えられる。
 また地方の活性化として空き家、空き店舗活用で域外からの新規参加者が子育て中の若い世帯で、そのような子ども向けの催しなど活動展開をする、場づくり（プレイスメイキング）等の社会的介入も意義あることは、蒲原の駄菓子屋ツバメの事例からも読み取れる。

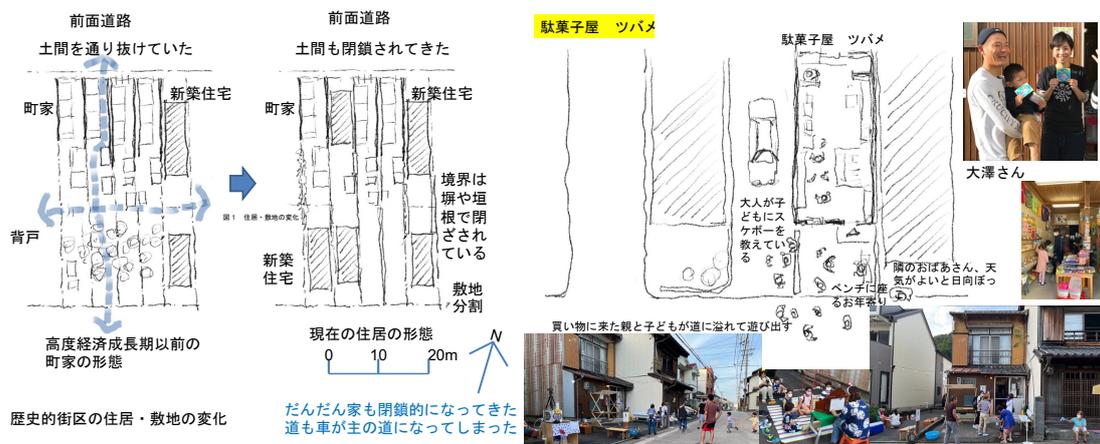


図 6：静岡市蒲原地域の住宅・街路の変化と子育ての社会関係資本再構築の新たな形態の事例

4-5. 子育ての社会関係資本を再構築するパタン・ランゲージ：『子どもまちづくり型録』

以上の研究成果を、研究グループで報告・討議しながら、目標としたパタン・ランゲージへのキーワード化等の作業を行い、合計 197 のパタンを抽出し、パタン名、説明用のイメージイラスト、計画的メッセージ（数行）、根拠を示す説明文、参照関連パタンの構成（A5 版・2 頁）で執筆し、出版した¹⁰。

これはまたウェブサイト（子育てまちづくり <https://sites.google.com/view/cosodachi>）に英文として部分を掲載し、パタンの一覧リストを掲載し、さらに海外からもパタンの追加を募集しながら、より広く国際的にも子どもにやさしまちづくりへの一助として展開することを意図している。



図 7：ウェブサイト掲載予定の英文版子育てのパタン・ランゲージの一例

脚注

1 寺田光成, エルミロヴァ マリア, 木下勇 (2020) 三世代変遷からみた人口減少下における農村の子どもの屋外遊び実態に関する研究 - 福島県石川町におけるケーススタディ -, 日本建築学会計画系論文集 第 85 巻 第 776 号, 2183-2192
 2 寺田光成, 木下 勇 (2020), 地方自治体による街区公園のボール遊びの規制実態に関する研究, ランドスケープ研究 (オンライン論文集), 13 巻, p. 52-58
 3 Susie Weller, Irene Bruegel (2009) Children's 'Place' in the Development of Neighborhood Social Capital: Urban Studies, Urban Studies vol.46(3), pp.629-643
 4 Rutten, R., Westlund, H., and Boekema, F. (2010) The spatial dimension of social capital. European Planning Studies, Vol.18(6), pp.863-871
 5 内閣府, NPO ホームページ, 2003.6.19 <https://www.npo-homepage.go.jp/toukei/2009izen-chousa/2009izen-sonota/2002social-capital>
 6 ロバート・D・パットナム (2000, 柴内康文訳 2006) 『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生—』 柏書房
 7 デューイ, J. (1915 宮原誠一訳 1957 『学校と社会』 岩波書店
 8 ジェイコブズ, J. (1961, 山形浩生訳, 2010) 『アメリカ大都市の死と生』 鹿島出版会, pp.102-103
 9 木下勇・寺田光成・三輪律江・松本暢子 (2023) 子育ての社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その 7 愛媛県内子町のケースから考える少子化対策としての歴史的町並み保存地区の空間整備の方向, 日本建築学会大会学術講演, 講演番号 7593 (2023 年度日本建築学会学術講演梗概集に掲載予定)
 10 木下勇・寺田光成 (編著), 松本暢子, 三輪律江, 吉永真理 (2023) 『子どもまちづくり型録』 鹿島出版会

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 木下勇・松本暢子・三輪律江・吉永真理・寺田光成・Mariia Ermilova	4. 巻 96
2. 論文標題 子育ての社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その1 外遊びを触発する子育ての社会関係資本の概念整理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 555-556
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 寺田光成・木下勇・松本暢子・三輪律江・吉永真理・Mariia Ermilova	4. 巻 96
2. 論文標題 子育ての社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その2 外遊びを触発する社会関係資本の指標	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 557-558
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Isami Kinoshita, Shen Yao, Liu Sai, Guo Xiaokang	4. 巻 Vol.36 No.1
2. 論文標題 Research on the Development Dynamics of Japan's Child Friendly Cities	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Urban Planning International	6. 最初と最後の頁 8-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19830/j.upi.2020.387	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 木下 勇	4. 巻 62巻5号
2. 論文標題 子どもが健康に育つ環境づくりー公園・校庭・自然環境などの方向性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小児科	6. 最初と最後の頁 494-501
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18888/sh.0000001724	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 寺田 光成, エルミロヴァ マリア, 木下 勇	4. 巻 85 巻, 768 号
2. 論文標題 三世代変遷からみた人口減少下における農村の子どもの屋外遊び実態に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 307-316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺田 光成, 木下 勇	4. 巻 18
2. 論文標題 地方自治体による街区公園のボール遊びの規制実態に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究(オンライン論文集)	6. 最初と最後の頁 52-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永井怜奈・三輪律江・寺田光成・木下勇・松本暢子・吉永真理	4. 巻 97
2. 論文標題 子育ての社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その3 住・街区形態の種類の違いによる児童の外遊びと地域との繋がりに関する調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 425-426
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木下勇・三輪律江・寺田光成・松本暢子・吉永真理・永井怜奈	4. 巻 97
2. 論文標題 子育ての社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その4 静岡市清水区蒲原地区の歴史的街区と郊外新興住宅地の対比から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 427-428
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺田光成・木下勇・三輪律江・松本暢子・吉永真理・永井怜奈	4. 巻 97
2. 論文標題 子育ての社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その5 通時的にみる外遊びと社会関係資本	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 429-450
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三輪律江・永井怜奈・寺田光成・木下勇・松本暢子・吉永真理	4. 巻 97
2. 論文標題 子育ての社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その6 プレオンライン調査による道路に対する世代別の認識	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 451-452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件(うち招待講演 5件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 木下勇・松本暢子・三輪律江・吉永真理・寺田光成・Mariia Ermilova
2. 発表標題 少子化時代の子育ての社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その1 外遊びを触発する子育ての社会関係資本のパタン・ランゲージの構想
3. 学会等名 こども環境学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 寺田光成・木下勇・松本暢子・三輪律江・吉永真理・Mariia Ermilova
2. 発表標題 少子化時代の子育ての社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その2 外遊びを触発する子育ての社会関係資本のパタン・ランゲージの構想
3. 学会等名 こども環境学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 寺田光成・木下勇・松本暢子・三輪律江・吉永真理・永井怜奈
2. 発表標題 少子化時代の子育ちの社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その3 児童の外遊びを通じた地域住民との関わり合いに関する調査
3. 学会等名 こども環境学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 永井怜奈・寺田光成・木下勇・松本暢子・三輪律江・吉永真理
2. 発表標題 少子化時代の子育ちの社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その4 住・街区形態の類型の違いによる児童の外遊びと社会関係資本のあり方
3. 学会等名 こども環境学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉永真理・寺田光成・木下勇・松本暢子・三輪律江・永井怜奈・田中大希
2. 発表標題 少子化時代の子育ちの社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その5 オンライン調査を通じた子どもに関わる仕事をする人たちの遊び経験の特徴
3. 学会等名 こども環境学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nobuko Matsumoto, Isami Kinoshita, Urs Maurer, Kati Landsidel, Ute Haas
2. 発表標題 Cooperative- & Collective Housing
3. 学会等名 Series of Seminar Recreating Social Capital for Child Growth in Living Environment (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Veera Mol, Eva Purkarthofer, Marketta Kytta, Maerit Jansson, Mari Yoshinaga, Isami Kinoshita
2. 発表標題 Bullerby Children & Social Capital in Nordic Countries
3. 学会等名 Series of Seminar Recreating Social Capital for Child Growth in Living Environment (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tim Gill, Lia Karsten, Norie Miwa, Isami Kinoshita
2. 発表標題 Streets & Housing Area
3. 学会等名 Series of Seminar Recreating Social Capital for Child Growth in Living Environment (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Isami Kinoshita
2. 発表標題 Urban Renewal, Place Identity and Local Governance
3. 学会等名 2021 International Landscape Architects Symposium, Beijing Forestry University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木下 勇
2. 発表標題 我が国の子どもの成育環境の改善に向けてー成育空間の課題と提言2020ー
3. 学会等名 子どもの権利条約31条のひろば 2021 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木下 勇
2. 発表標題 ユニセフ「日本型CFCモデル検証作業」から見たこと
3. 学会等名 日本ユニセフ協会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木下 勇
2. 発表標題 防犯活動から防犯まちづくりへ 子ども目線からみたやさしいまちへ
3. 学会等名 岡山県自主防犯ボランティアパワーアップ講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Isami Kinoshita, Mitsunari Terada, Mariia Ermilova
2. 発表標題 Children 's Play with Nature Across Generations From Childhood Play Biographies to “Bio-Playtope”
3. 学会等名 Nature Learning Initiative 20th Anniversary Design Institute, March 25-26, 2021（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Isami Kinoshita, Mitsunari Terada, Tim Gill
2. 発表標題 Rebuilding Social Capital For Children's Outdoor Play and Democratic Society
3. 学会等名 IPA (International Play Association Promoting Child's Right to Play)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Isami Kinoshita, Maerit Jansson, Tim Gill, Mitsunari Terada
2. 発表標題 Rebuilding Social Capital for Kids Outdoor Play; an international study connecting the present with the past
3. 学会等名 10th Child In the City World Conference in Dublin
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木下勇・寺田光成・三輪律江・松本暢子
2. 発表標題 子育ての社会関係資本を再構築する住まい・道・住区の形態に関する研究 その7 愛媛県内子町のケースから考える少子化対策としての歴史的町並み保存地区の空間整備の方向
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Michael Dietrich, Viktorija Zalcbergaite, Mitsunari Terada, Isami Kinoshita, et.al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 kopaed	5. 総ページ数 327
3. 書名 Kultur. Spiel. Rsilienz	

1. 著者名 池田駿介、内田伸子、木下勇、仙田満監修 子どもの水辺研究会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 技法堂出版	5. 総ページ数 225
3. 書名 水辺のプレイフルインフラ	

1. 著者名 Deborah Mutnick, Carole Griffiths, Margaret Cuonzo, Jay M Shuttleworth, Timothy Leslie, Mariia Ermilova, Mitsunari Terada, Isami Kinoshita, et.al.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 304
3. 書名 The City is an Ecosystem - Sustainable Education, Policy, and Practice	

1. 著者名 木下勇、寺田光成、松本暢子、三輪律江、吉永真理	4. 発行年 2023年
2. 出版社 鹿島出版会	5. 総ページ数 246
3. 書名 子どもまちづくり型録	

〔産業財産権〕

〔その他〕

子育てまちづくり https://sites.google.com/view/cosodachi 子育ての社会関係資本 https://www.machiwork.net/social-capital
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三輪 律江 (Miwa Norie) (00397085)	横浜市立大学・国際教養学部(都市学系)・教授 (22701)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉永 真理 (Yoshinaga Mari) (20384018)	昭和薬科大学・薬学部・教授 (32624)	
研究分担者	寺田 光成 (Terada Mitsunari) (30915856)	高崎経済大学・地域政策学部・特命助教 (22301)	
研究分担者	松本 暢子 (Matsumoto Nobuko) (90183954)	大妻女子大学・社会情報学部・教授 (32604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Series of Seminar Recreating Social Capital for Child Growth in Living Environment	開催年 2022年～2022年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フィンランド	アアルト 大学			
スウェーデン	スウェーデン農業科学大学			
オランダ	アムステルダム大学			
ドイツ	PA Spielkultur e.V.			
スイス	Netzwerk Bildung & Architektur			
英国	Design Council			